

「地産地消」を目指して

ふれあいバザール

地域で生産された農産物を地域で消費する「地産地消」運動の一環として、また資源の有効利用による緑地の保全を目的としたふれあいバザールが6月26日、緑と花のセンター「さんさん」の郷で開催されました。取れたての新鮮な農産物の販売やくじ引き、輪投げゲームなどが行われたこの催し。訪れたおよそ550人は、楽しい休日のひとつを過ごしていました。なお今回は8月28日に開催予定です。皆さんぜひお出掛けください。



子どもと一緒にいい汗を

パパと遊ぼう

育児中の親に生き生きと子育てをしてもらおうと、三好町ではさまざまな育児講座を開いています。その一つとして6月26日、サンアートの「パパと遊ぼう」を開催。レクリエーションインストラクターの鈴木真弓さんを講師に迎え、参加した27組75人の親子は、タオルを使って誰でも気軽に遊べる親子遊びなどをして交流を深めました。参加したお父さんは「徐々に子どもと思いきり遊び、いい汗をかきました」と満足そうでした。



冷たくて気持ちいいね

保育園プール開き

まもなく夏本番、水遊びの楽しい季節がやってきます。打越保育園では、7月1日にプール開きが行われ、全園児122人が今年初めての水遊びを楽しみました。水着に着替えた子どもたちは、青組の代表5人によるテープカットが行われた後、いよいよプールの中へ。おもちゃのすくいやカップリレーなどのゲームを楽しんだり、友達や先生と水を掛け合ったりして、冷たくて気持ちいい水の感触に大はしゃぎの様子でした。



日ごろの思いを力強く発表

少年の主張三好町大会

子どもたちが、日ごろの生活の中で考えていることや実践していることを広く伝え、青少年の健全育成に対する理解を深めてもらうと6月19日、少年の主張三好町大会がサンアートで開催されました。町内小中学校の代表10人が、あいさつの大切さや部活動を通して学んだことなど、今持っている思いを力強く発表。三好中学校3年の安藤千絵さんは「緊張したけれど、練習どおりに発表できてよかったです」とほっとした様子でした。



ウガンダの踊りを体験

世界を知ろう・体験しよう「ウガンダ編」

世界の国や地域について理解を深めてもらうと年3回開催される講座「世界を知ろう」体験しよう。そのウガンダ編が6月26日、サンアートで開かれました。アフリカ・ウガンダ共和国出身のウインセント・サリさんが、ウガンダの自然や文化、音楽などを紹介。22人の参加者たちは、輪になってウガンダのダンスを体験し、リズムカルな動きを楽しみました。岡本政子さんは「ウガンダをとても身近に感じました」と笑顔で話していました。



きれいに塗れたよ

ボディペインティング

ベル三好幼稚園では、夏ならではの遊びを楽しもうと、水彩絵の具を使ったボディペインティングを毎年行っています。6月22日には年中園児110人が参加。汚れてもいい「どろんこパンツ」1枚で園庭に飛び出た園児たちは、赤・黄・青・緑・白5色の絵の具を手につけ、友達や自分の体にペインティングをして楽しみました。村上芳枝園長は「子どもたちが持っているエネルギーを発散し、楽しんでくれたら」と目を細めていました。

